

## 第2回通常総会開催

警備業界への協力も検討

### 万防機構

全国万引犯罪防止機構（東京都新宿区、河上和雄理事長、TEL 03・3355・2322、以下万防機構）は、18日に新宿厚生年金会館で第2回通常総会を開催。昨年に引き続き実施された調査報告書の公表や、各県の万引対策の現状報告などが行われた。

総会に先立ち、河上理事長は、「発足したばかりで十分な活動をしかねている状況ではありますが、徐々に活動も本格化してまいりました。皆様方のご協力、ご支援をいただいて、更なる発展をしたいと念じております。これから先、何かとご指導を受ける機会が多いと思います。宜しくお願ひ申し上げます」と挨拶。その後、18年度事業報告、決算報告、そして19年度事業計画、予算案を審議され、原案通り承認。18年度は調査研究事業、普及啓発活動に重点を置き活動。調査研究事業としては、ともに2回目となる「万引犯罪に関する全国青少年意識調査」、「全

国小売業万引被害実態調査」を行うなど、各地の万引犯罪防止活動に関する情報収集を推進。万防機構のデータアーカイブへの収録を進めた。普及啓発活動として、販売店における万引防止のマニュアル作成、普及を同機構の大きなテーマと掲げている。これについて、全国警備業協会の全面的協力を得たことで構想が具体化。万引犯を捕捉した際の警察への通報の仕方、個人商店の警察への通報にかかる負荷などについて、警備業界に協力を求めることを検討中。成案化の可能性も出てきたと報告された。19年度事業計画として、調査研究事業では、引き続き小売業調査および青少年調査を実施。新たにケーススタディの実施により、万引対策の効果や万引の罰金刑判決状況などを紹介予定。この他、事業者対象の万引犯罪防止セミナー、店舗セキュリティ専門家養成講座、小中学校万引防止教室なども計画している。

通常総会后、堀田力さわやか福祉財団理事長による、「ほころび始めた社会をどう再設計するか」と題した記念講演を実施。検事になる前の司法修習

時代に、最初の身柄事件が女性の万引事件だったことを紹介。子どもの万引は、健全育成に最悪であり、子どもの良心、倫理観が磨耗してしまうことが、万引の最も恐ろしい弊害と指摘。万引への対応策として、商品を大量に盗むケースは、防止策を立て、警察が取り締まるしかない。買い取り側も古物商として記録して、直ちに警察に連絡する仕組みを作ることが必要。厳罰化により、商品を大量に盗むといったプロの手口の犯罪には、被害額比例ではなく、本人の矯正の可能性を考えて刑を選んでもらうことも必要。ストレス型、衝動型の万引への対策は、倫理観教育が対策の基本で、社会的意義も大きい。子どもへ教育を施しても、問題のある親と一緒にいれば正しく育たない。そこでNPOや地域活動により、問題のある親の内面を教育する取り組みの必要性を語った。

講演後、福岡正行理事長が挨拶。親に対して、PTAや警察の方々と、万引をすることの重大性、ルールを守ることの教育も必要。万引発見の際、子どもの将来を考え通報しないケース

も多いが、きちんと叱ることも必要。文部科学省や警察関係、万防機構で子どもと対話する機会を設けることを提唱。最低限、基本的なルールを子どものうちを守ることも大切さを教えることが、万引問題などにも行き着くとした。

その後、菱川雄治警察庁生活安全課企画課長からのメッセージを紹介。この中で、これまでの活動を評価。また、経営者等による自主防犯対策として、商品への防犯用ICタグ等の電子商品監視機器等の防犯機器の設置、拡充や学校と連携した防犯指導などの各種活動については、今後の効果に大きな期待を寄せているとした。今後の活動については、関係諸機関および地域ボランティアの方々との連携により、地域の事情を反映した万引防止活動を積極的に推進。犯罪のない社会で住みよい地域社会の実現に向け、今後の活動への期待で締めくくられた。

その後、北海道、長野、栃木、東京、福岡における取り組みや万防機構による調査内容が報告された。総会後に開催された意見交換会にも、多数の関係者が参加した。